

対馬つしまの島しまの浅茅あさぢの浦うらに至りいた舟泊ふなどまりする時とき
に、順風じゆんぷうを得えずて、経停けいテイすること五箇日いつつかな
り。ここに物華ものくわを瞻望せんぼうし、各おののおの働心どうしんを陳のべ
て作る歌つくうた三首

三六九七番

百舟ももふねの 泊はつる対馬つしまの 浅茅山あさぢやま しぐれの雨あめに
もみたひにけり

三六九八番

天離あまざかる 鄙ひなにも月つきは 照てれれども 妹いもそ遠とほくは
別わかれ来きにける

三六九九番

秋あきされば 置おく露霜つゆしもに あへずして 都みやこの山やまは
色いろ付づきぬらむ